

福祉先進都市東京に向けた懇談会

テーマ:医療・介護分野

2014年9月10日

「東京における地域包括ケアシステムの実現にむけて

認知症施策を核に
一人ひとりが自分らしく暮らせる
自律支援型地域包括システムの創出



社会福祉法人 浴風会
認知症介護研究・研修東京センター
研究部長 永田 久美子

認知症の人は、時代のカナリア

**元気な人が気づかずにいる社会問題や
最も必要とされる支援・施策のあり方を
身をもって伝えてくれている**

認知症の人は、時代のカナリア

**元気な人が気づかずにいる社会問題や
最も必要とされる支援・施策のあり方を
身をもって伝えてくれている**

認知症以外の、生活のしづらさを
抱えつつ声をあげにくく都民の
代弁役であり、多世代共生の
まちを創るための鍵を握る

認知症の人は、時代のカナリア

元気な人が気づかずにいる社会問題や
最も必要とされる支援・施策のあり方を
身をもって伝えてくれている



認知症以外の、生活のしづらさを
抱えつつ声をあげにくく都民の
代弁役であり、多世代共生の
まちを創るための鍵を握る

2014年 東京都で暮らす認知症の人の姿の
現状と課題は？

認知症の人は、時代のカナリア

元気な人が気づかずにいる社会問題や
最も必要とされる支援・施策のあり方を
身をもって伝えてくれている

認知症以外の、生活のしづらさを
抱えつつ声をあげにくく都民の
代弁役であり、多世代共生の
まちを創るための鍵を握る

2014年 東京都で暮らす認知症の人の姿の
現状と課題は？

2025年 東京都で暮らす認知症の人の
めざす姿は？

認知症の人は、時代のカナリア

元気な人が気づかずにいる社会問題や
最も必要とされる支援・施策のあり方を
身をもって伝えてくれている

認知症以外の、生活のしづらさを
抱えつつ声をあげにくく都民の
代弁役であり、多世代共生の
まちを創るための鍵を握る

2014年 東京都で暮らす認知症の人の姿の
現状と課題は？

「めざす姿」にむけた地域包括
ケアシステムのあり方・進め方は？

2025年 東京都で暮らす認知症の人の
めざす姿は？

認知症の人の「生きる姿」のこれまでと今

～支援のあり方で本人の姿が大きく変化～



～1960
隔離・拘束



1970
収容
集団管理
問題対処



1980
専門処遇
集団療法



1990
家庭的・小規模
な場での
個別支援が
始まる



2000
地域の中での
本人本位の
生活支援
⇒包括的・継続的
ケアの始まり



2014
初期から最期まで
本人が意思を尊重され、
自分らしく(自律して)
暮らし続ける支援

2013～
認知症施策
推進5か年計画
(オレンジプラン)

2000～介護保険
本人本位のケア
地域包括ケア/システム

1992～認知症デイサービス
1997～認知症グループホーム・
2006～地域密着型サービス

精神病院・老人病院・老人施設

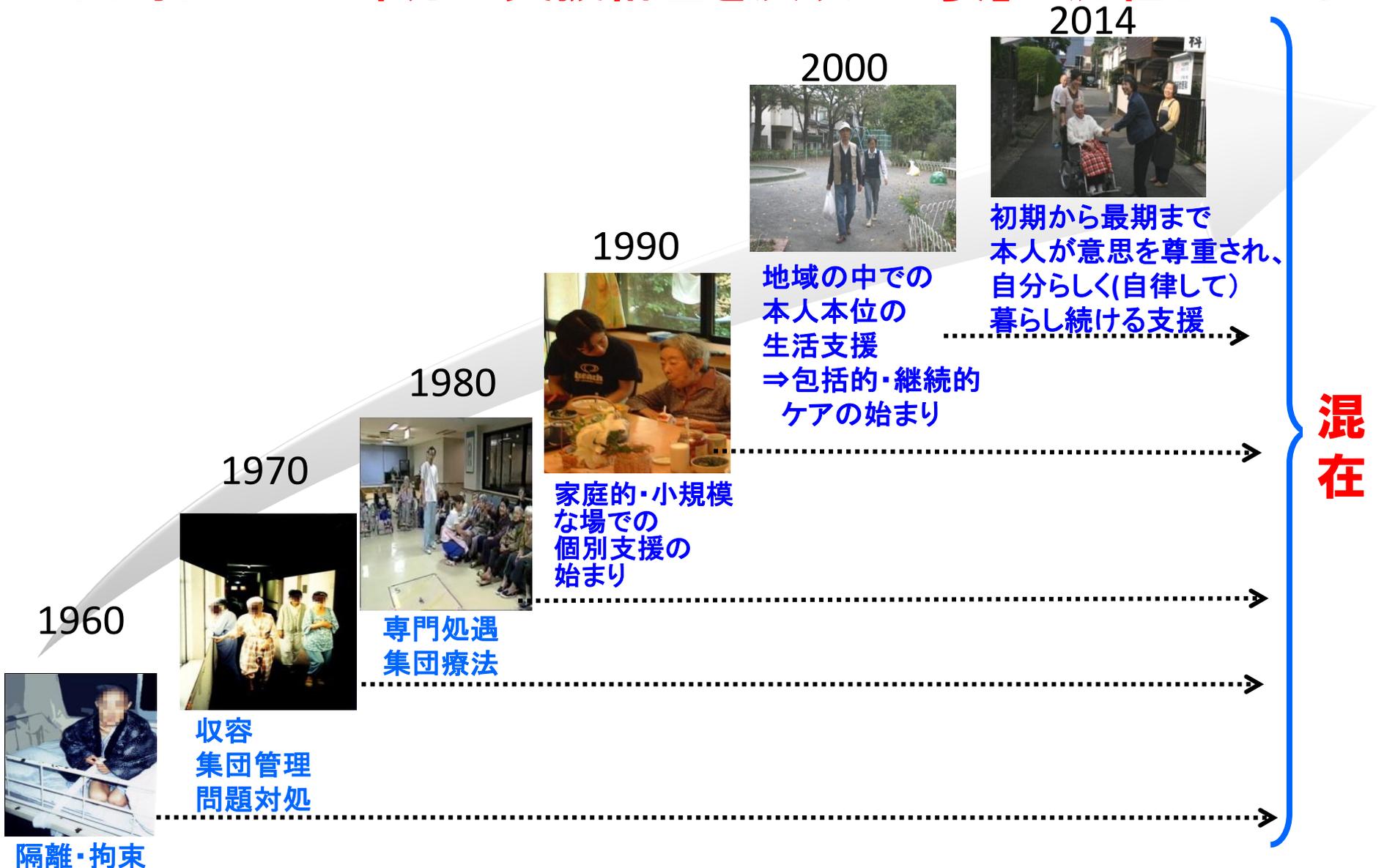
家族が孤軍奮闘

家族支援

本人支援

2014年9月の現状

同時代に「50年分の支援格差を反映した姿」が混在している



「都民(自分自身)」が、認知症になってからの「生きていく姿」が大きく異なる。

認知症：長い経過をたどる

自分らしい
暮らし

変調の始まり

症状・生活障害の重度化

全身状態低下

終末

旧い支援：

【本人の意思を無視】

本人が自分を保てなくなり
不安・混乱・絶望を強めながら
心身・生活が急速に
崩れていく

これからの支援：

【本人の意思を尊重】

本人が自分を保ち
希望をもちながら
生き生き暮らす

2本の線の差
= 作られた障害

本人の姿

- 医療・介護・地域支援が不可欠だが、
「旧い支援」の発想・あり方を転換しないまま、
量的整備やシステムづくりを進めても、
「作られた障害」に苦しむ都民が増え続ける。
→ 不必要な医療・介護のコストが膨張し続ける
- ★ 「本人の意思尊重」を共通価値として実装した
地域包括ケアシステムの整備を。

東京都がめざしたい地域包括ケアシステムのあり方

これまで：サービス提供型

「本人の意思尊重」は理念どまり
実装がない

- 本人(都民)は対象者
- 支援やサービスを提供される人
- 自分の意思、有する力、個性を
発揮できないまま状態悪化。
自分らしい暮らしを送れない。
- 医療・介護等にお任せ。
過剰な依存。
- 本人の意思がわからぬまま
無駄・無理の多いサービス
- unnecessary コストが増大・不満

将来の希望・発展性がない

これから：都民の自律支援型
「本人の意思尊重」を実装した
システム

- 本人(都民)は当事者
- 支援やサービスを提供者とともに
創り、適切に利用する人
- 自分の意思、有する力、個性を
最大限に発揮し、状態を保つ。
自分らしく最期まで暮らし続ける。
- 医療・介護等にお任せにしない。
過剰に依存しない。
- 本人の意思を支援関係者が共有。
無駄・無理を省いたサービス

将来の希望・発展性がある

東京都がめざしたい地域包括ケアシステムのあり方

これまで：サービス提供型

「本人の意思尊重」は理念どまり
実装がない

- 本人(都民)は対象者
- 支援やサービスを提供される人
- 自分の意思、有する力、個性を
発揮できないまま状態悪化。
自分らしい暮らしを送れない。
- 医療・介護等にお任せ。
過剰な依存。
- 本人の意思がわからぬまま
無駄・無理の多いサービス
- unnecessary コストが増大・不満

将来の希望・発展性がない

これから：都民の自律支援型

「本人の意思尊重」を実装した

東京都の特徴

- 意識の高い住民が多い。
- 自律した生活を支える
意識・スキルの高い
専門職人材・場が多い。
新時代人材が育ちつつ
ある。
- 本人の自律生活支援に
必要なツール・システム
開発のための多業種
人材・組織が豊富。

○必要

将来の希望・発展性がある

●わたし抜きに決めないでほしい。

- 医療とか、介護とかいうけど、
本人が何に困っているか、どうしてほしいかを
聴かないで、なんでやれるんですかね？

わたしは中小企業で働いてきましたが
お客さんの声を大事にするのはあたりまえ。
この業界(医療、介護)は、恐ろしく時代遅れ…。

- みなさんには本当に感謝してます。
でも…自己満足では…。
- 考えるのは難しい。でも選択肢をわかりやすく
伝えてくれれば、わたしなりに、わかります。
- これでいいか、わたしにきいて…。
- わたしだったらどう選ぶか、みんなで考えて。

すでに生まれ始めている自律支援型地域包括ケアシステム

自分らしい
暮らし

変調の始まり

症状・生活障害の重度化

全身状態低下

終末



すでに生まれ始めている自律支援型地域包括ケアシステム

自分らしい
暮らし

変調の始まり

症状・生活障害の重度化

全身状態低下

終末



自律支援型地域包括ケアシステムの実装に向けて

自分らしい
暮らし

変調の始まり

症状・生活障害の重度化

全身状態低下

終末



元気なうちから、
これからの備えて
自分の意思を書く・伝える
場創り。



自律支援型地域包括ケアシステムの実装に向けて

自分らしい
暮らし

変調の始まり

症状・生活障害の重度化

全身状態低下

終末



・本人の意思をもとにしながら、
本人の地域生活の継続を
多職種で検討・実施・評価



自律支援型地域包括ケアシステムの実装に向けて

自分らしい
暮らし

変調の始まり

症状・生活障害の重度化

全身状態低下

終末



- ・診断前後に本人の意思表示を支援。
- ・今後の自分の生活について多職種とはなしあい、希望のデザインをつくる支援



自律支援型地域包括ケアシステムの実装に向けて

自分らしい
暮らし

変調の始まり

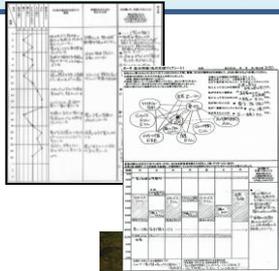
症状・生活障害の重度化

全身状態低下

終末



本人の意思、本人の生(命・生活・人生)の個別具体情報を多職種が
バトンタッチして、包括的・継続的に支援をしていく情報システム



自律支援型地域包括ケアシステムの実装に向けて

自分らしい
暮らし

変調の始まり

症状・生活障害の重度化

全身状態低下

終末



自律生活を維持する
支援機器の開発・普及
・位置・時間・予定等を
自分で確認できるツール
・SOSを伝えるツール
・スケジュール管理、
金銭管理ツール
・服薬支援機器 等



自律支援型地域包括ケアシステムの実装に向けて

自分らしい
暮らし

変調の始まり

症状・生活障害の重度化

全身状態低下

終末



- ・本人の意思を尊重した包括的・継続的支援を
実践・推進する地域の
人材・チームの体系的な育成
- ・人材育成の地域拠点の
整備



国・都が“描いたシステム”から 区市町村が創る自律支援型システムへ



○都内62区市町村の医療・介護等の社会資源、風土や歴史、住民の生活や医療・介護等をめぐる意識には多様性があり、従来の“標準的地域包括システム図”では実現していく上での困難と無駄が大きい。

“わがまちのシステム図”に置換していく作業が不可欠である。

○各区市町村が、地域固有の資源やつながりを地元住民とともに徹底的に洗い出しながら無理・無駄のない「わがまちのシステム」を描き出し、その着想や工夫を区市町村間で共有・増幅させながら、各区市町村が自律的に地域包括ケアシステムを構築していくことを都として資金面を含めて2025年までに中長期的スパンで、計画的にバックアップしていくことができると、将来的に都内区市町村が、持続発展可能な「わがまち固有のシステム」を創出していける。（写真；モデル的取組み）

区市町村にある固有な資源が、参画した自律型システム

- ▶ **自治会** ▶ **民生・児童委員（協）** ▶ **（地区）社協**
- 見守り協力者、集落支援員、婦人会、老人クラブ 地域の長老
- ▶ **消防団、防犯・防災メンバー** 祭の関係者
- ▶ **寄り合いどころ（地域サロン等）**
- ▶ **町の趣味・文化・運動サークル、**
ウォーキング好き、ラジオ体操の会 ▶ 犬の散歩仲間、動物
- ▶ **未就園児母子、子ども会、学童クラブ** ▶ 子育てサークル
- ▶ **青年部、若者/グループ、団塊の世代**
- ▶ **ボランティア（地元の会）施設慰問グループ**
- ▶ **介護者の会、家族の集い NPO**
- ▶ **同級生つながり、同僚つながり など**

民

産

本人・家族

学

官

- ▶ **近くの大学**
- ▶ **高校** 学校
- ▶ **中学校**
- ▶ **小学校**
- ▶ **保育園、幼稚園**
送迎バス
- ▶ **子供たち**
- ▶ **先生たち**
- ▶ **PTA**



- ▶ **個人商店（八百屋、魚屋、肉屋等）、スーパー、コンビニ、コープ直売所** ▶ **飲食店** ホームセンター、大工、お寺
- ▶ **薬局** ▶ **理美容店** ▶ **鍼灸院、整骨院、マッサージ**
- ▶ **宅配業者、新聞店配達、ヤクルト、牛乳、ゴミ回収業者**
- ▶ **タクシー、バス、駅・鉄道、トラック、ガソリンスタンド**
- ▶ **銀行、信用金庫、郵便局**
- ▶ **カラオケ、パチンコ**
- ▶ **農家、農協、漁協、商工会**
- ▶ **工場、倉庫**

地元企業



▶ **医療・介護・福祉リソース**

- ▶ **市職員、**
- 地域包括支援センター**
- 保健センター**
- 老人福祉センター**
- 公民館**
- ▶ **消防本部**
- ▶ **警察 など**



参考・富士宮市資料をもとに
静岡市の関係者の話し合いで加筆

わが町の場、自然、季節、文化、産業等

- ★町のあらゆるものが、見守り・支え手→人から人へ活きた関係を紡ぐ
- ★領域を越えたつながりが、新たな解決力を生む：専門職・行政職も地域の一員
- ★本人、家族：地域支援・体制づくりの大事なパートナー

認知症になっても支えられる一方ではなく、
新しい生き方の時代へ

地域で働き、地域を支える一員として活躍している人たち



服の繕いもの



忙しいお隣の草取り



子供を守ろう
防犯パトロール中



保育園の助っ人



玉ねぎの皮むき
収益を分配



亡くなる直前まで
学校帰りの子供に
(おかえり~)とつぶやく

認知症の本人・家族、専門職、地域の方は想像以上の力を秘めている！



第1回全国認知症ソフトボール大会(2014年3月)